

10月8日(木曜日)「求められる決断」

【新改訳 2017】

ルカ 9.57-62

「……ある人がイエスに言った。『私はあなたのおいでになる所なら、どこにでもついて行きます。』すると、イエスは彼に言われた。『狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所もありません。』」(57、58 節)

人生は選択と決断の連続である、と言われていています。信仰生活もまさにその通りです。そして、その選択と決断は、そのまま、その人の生き方を決めることになります。

主イエスは、ここで、三人の例を挙げて教えられましたが、いずれも「キリストを信じて生きる」という人生の選択と決断の重大さを述べているものです。それは、安易なものではないこと、優柔不断ではできないこと、神の国を第一に優先しなければならぬことなどを意味しています。

主の結びのことば―「だれでも、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくはありません」(62 節)―は、真実な決断の必要を教えておられるものです。どうかこのよ

うな決断ができますように。

～祈り～

主よ。御国の福音に生きるものとしてふさわしい、真実な決断をもって、あなたに従い続けることができるように導いてください。

【学びのために】

10月3日の日課も参照。